

かっぱ像の修理について

私達は野間学区の住民が集まり、地域活性化を目指して発足した町民活動グループです。この地域を元気にするためには、シンボルが必要だと話がまとまり、検討していたところ、河和港にかっぱの親子像が建てられました。町内にある3体のかっぱ像を1つに集めて新しく家族像として創られたものです。この野間地区には、オリジナルの野間太郎父ちゃんかっぱ像が海岸にあります。しかし、老朽化が進んでおり、このまま放置していると崩れてしまうことが予想されます。そこで、このかっぱ像を修理して野間のシンボルとして、再登場させたいと思います。河和口駅前の花ちゃん娘かっぱ像、河和港の新しいかっぱ家族像、美浜のかっぱ伝説などとコラボレーションをして、地域や町外の人達にPRしていきます。

美浜のかっぱ伝説

編集

かとうまこと

むかしむかし、美しい浜をもつある村の小川に親子のかっぱがすんでいました。そのかっぱは、太郎父ちゃん・ゆり子母ちゃん・娘の花ちゃんと息子の和ちゃん、しあわせなかっぱの家族でした。しかし、かっぱ親子は村人たちにその姿を見せることはありませんでした。

ある年の夏、それはそれは暑くてひでのりの毎日でした。田畑も池や川も干上がり、雨乞いをする日々です。暑さと栄養不足で寝込む村人もあとをたちません。枯れ果ててゆく田畑、祈る村人、泣きじゃくる子どもたち。ついにかっぱ親子は雨を降らせる決心をしたのです。

その夜、かっぱ親子は、月明かりの浜で天に祈りを捧げて雨雲を呼び寄せようとした。やがて雲が月をかくし、真っ暗になった空から雨が降り始めました。次第に強くなっていく雨は干上がった大地にしみこみ、村中大喜びとなりました。

かっぱ親子は、こうしてくる日もくる日も村人たちの知らないところで雨を降らせ続け、やがて村は落ち着きを取り戻し始めたのでした。

そんなある夜のことです。川のそばに住む子どもが目を覚まし、用を足そうと外に出たところ、雨乞いをするかっぱ親子を見てしまいました。子どもは、はじめて見るかっぱの姿に驚き、腰を抜かして川に落ちてしまったのです。川の流れば速く、子どもはあつという間に海まで流されてしまいました。

それを見ていた和ちゃんかっぱは、とっさに海に飛び込み追いかけてきました。雨乞いので力を使いきった和ちゃんですが、荒れた海を必死で泳ぎ、やっとの思いで子どもを川岸まで連れ戻すことができました。しかし、和ちゃんは力尽きて、そのまま川の流れに乗り海に消えてしまったのです。

次号につづく